

諏訪之瀬島の火山活動解説資料（平成 25 年 6 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方気象台

御岳^{おたけ}火口では、今期間、噴火¹⁾は発生しませんでした。長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

平成 19 年 12 月 1 日に火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 6 月の活動概況

・噴煙など表面現象の状況（図 1、図 3-①⑥）

御岳^{おたけ}火口では、噴火は発生しませんでした。噴煙活動に特段の変化はなく、白色の噴煙が火口縁上 100～200m で経過しました（最高 600m²⁾）。同火口では夜間に高感度カメラで確認できる程度の微弱な火映³⁾を時々観測しました。



図 1 諏訪之瀬島 噴煙の状況（6 月 15 日、キャンプ場遠望カメラによる）
白色の噴煙が火口縁上 600m まで上がり、東へ流れました。

この火山活動解説資料は福岡管区気象台ホームページ（<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>）や気象庁ホームページ（<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>）でも閲覧することができます。次回の火山活動解説資料（平成 25 年 7 月分）は平成 25 年 8 月 8 日に発表する予定です。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ（標高）』を使用しています（承認番号：平 23 情使、第 467 号）。

・地震や微動の発生状況（図 3-②～⑤⑦～⑩、図 4）

2012 年 9 月 28 日からほぼ連続していた火山性微動は 6 月 1 日で一旦終了し、12 日以降再び連続して発生するようになりました。火山性微動の継続時間の月合計は 325 時間 43 分（5 月：704 時間 54 分）でした。

- 1) 諏訪之瀬島では噴火活動が活発なため、噴火のうち、爆発的な噴火もしくは噴煙量が中量以上（概ね噴煙の高さが 1,000m 以上）の噴火の回数を計数しています。資料の噴火回数はこの回数を示します。また、基準に達しない噴火は、ごく小規模な噴火としています。
- 2) 2003 年 3 月 28 日以降、噴煙の最高高度は遠望監視カメラによる観測値と十島村役場諏訪之瀬島出張所の報告のうち高い値を用いています。
- 3) 赤熱した溶岩や高温の火山ガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。

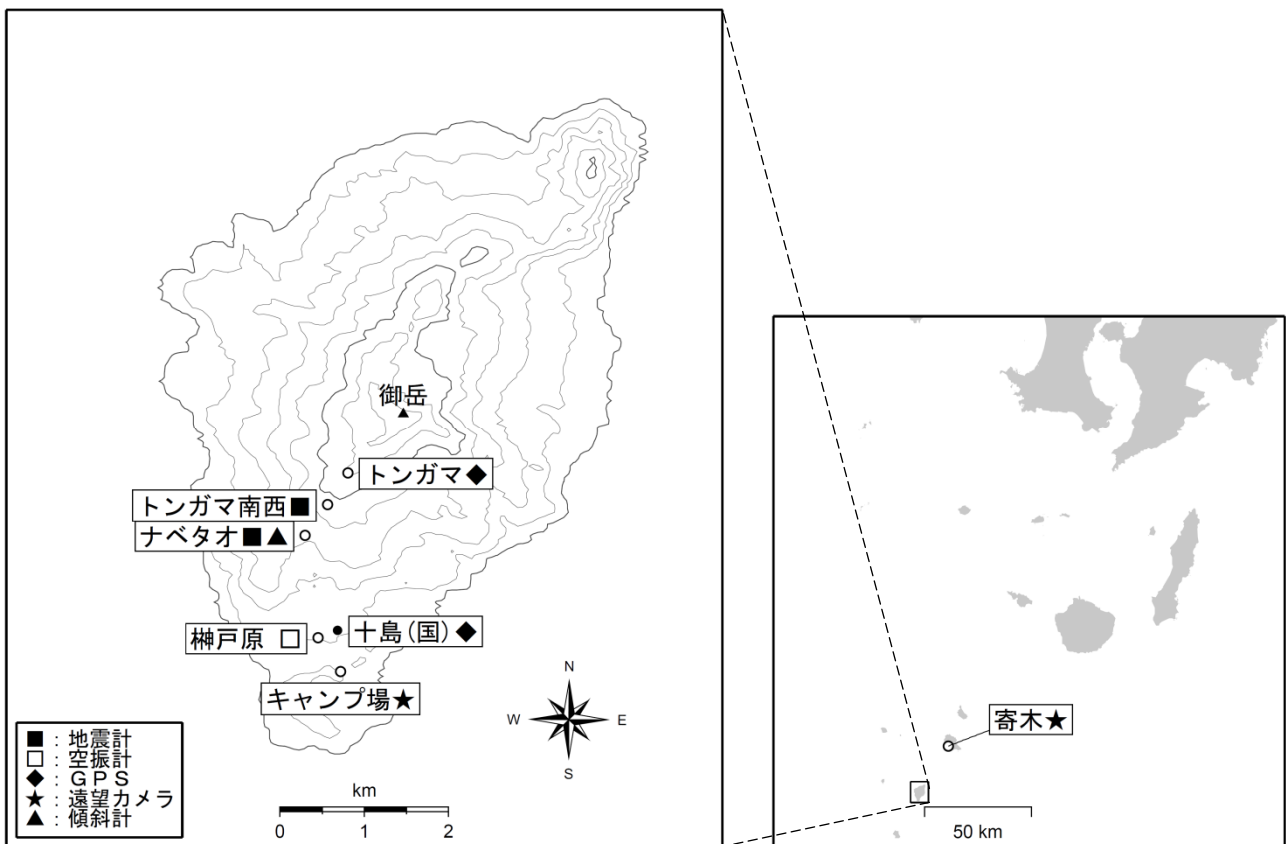


図 2 諏訪之瀬島 観測点配置図

小さな白丸（○）は気象庁、小さな黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院

2012 年 8 月 27 日より GPS トンガマ観測点の障害のため、トンガマー十島（国）間の基線長データは欠測しています。

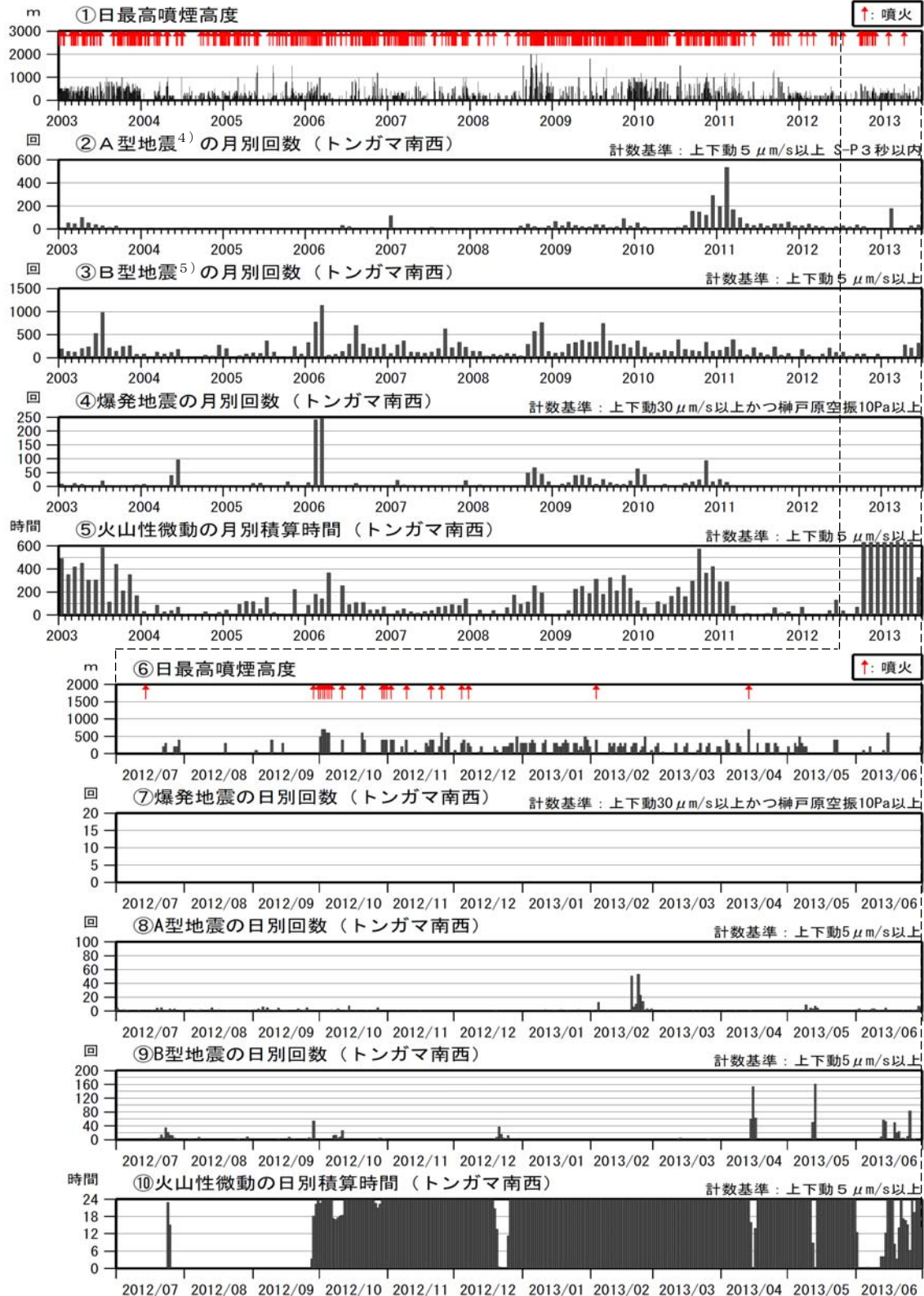


図3 諏訪之瀬島 火山活動経過図（2003 年 1 月～2013 年 6 月）

長期にわたり噴火を繰り返しています。

< 6 月の状況 >

- ・ 白色の噴煙が火口縁上 100～200m で経過しました（最高 600m）。
- ・ 2012 年 9 月 28 日からほぼ連続していた火山性微動は 6 月 1 日で一旦終了し、12 日以降再び連続して発生するようになりました。

4) 火山性地震のうち、P 波、S 波の相が明瞭で比較的周期の短い地震で一般的に起こる地震と同様、地殻の破壊によって発生していると考えられ、マグマの貫入に伴う火道周辺の岩石破壊によって発生していることが知られています。

5) 火山性地震のうち、相が不明瞭で、比較的周期が長く、火口周辺の比較的浅い場所で発生する地震で、火道内のガスの移動やマグマの発泡などにより発生すると考えられています。

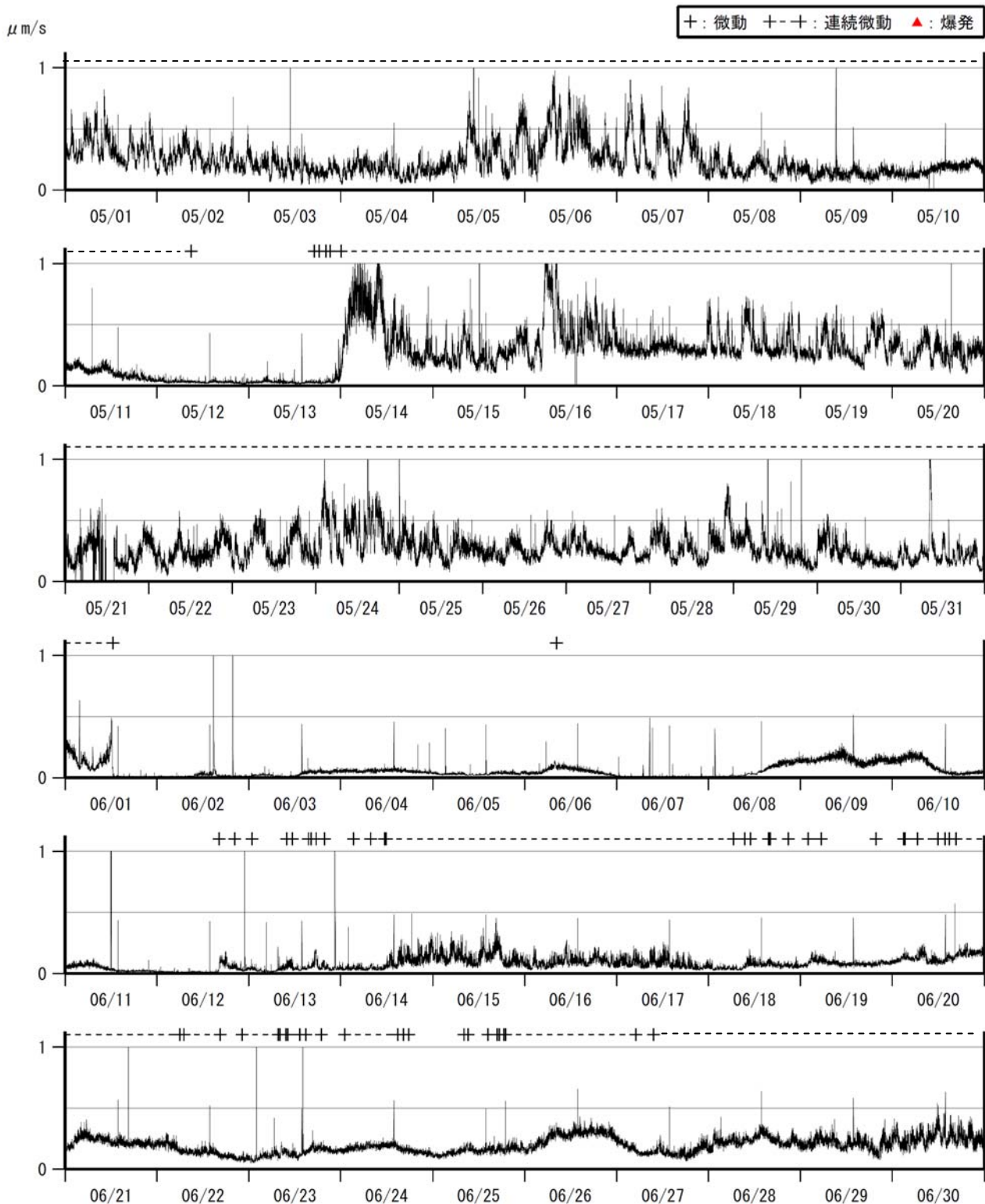


図 4 諏訪之瀬島 1 分間平均振幅の時間変化（ナベタオ観測点上下動成分）
（2013 年 5 ～ 6 月）

< 6 月の状況 >

2012 年 9 月 28 日からほぼ連続していた火山性微動は 6 月 1 日で一旦終了し、12 日以降再び連続して発生するようになりました。継続時間の月合計は 325 時間 43 分（5 月：704 時間 54 分）でした。